

第2回 南知多町学校建設委員会 会議録

開催日時	令和8年7月27日 午前10時から
開催場所	南知多町役場3階大会議室
出席委員	14名
欠席委員	1名
事務局	6名
傍聴者	5名

■会議内容

1 開会

2 挨拶

【石黒町長】

本日の会議にご出席いただきましてありがとうございます。

検討委員会では、様々な立場の方々から、より多くのご意見をいただきたい。町民の皆さんが大切に考えていただける学校づくりのために、多くの皆さんの意見が反映され、より良い学校になることが「私たちの学校」という意識付けになると信じております。

【委員長より確認事項】

- ・本日の会の公開・非公開について、次第3、協議事項のグループワーク部分は非公開とし、それ以外は公開とすることについて。
→異議なし
- ・学校建設に関わる基本構想・基本計画作成業務の受託事業者である地域計画建築研究所が事務局として会議に参加し、必要に応じて説明等を行うことについて。
→異議なし

3 議事

【報告事項】

- 1) 前提条件の整理（資料1、資料2）
 - ・資料をもとに事務局が説明。
- 2) 事前アンケートの集計結果（資料3）
 - ・資料をもとに事務局が説明。
 - ・事前アンケートにて寄せられた質問について次のとおり回答

質問	回答
小学校統合の議論が始まっている中、なぜ今の段階で同一棟と別棟を決めるのか	現在、小学校のあり方検討として議論が始まっている。 また、同一棟か別棟により施設の大きさや配置がまったく変わるため、都市計画法や農地関係の法規制への対応、事業費の算出、特別教室共用の取扱いが大きく変わるため、それぞれの建設方式のポイントを整理していく必要がある。

建設検討委員の役割は何か。 町の提案を委員が承認するの か、たたき台を作るための意 見を聞く場か。	本委員会は、地域、保護者、学校関係者等の様々な角度か ら、より多くの意見をいただくための会議である。
--	---

3) 先進校の視察報告（資料4）

- ・資料をもとに事務局が説明。
- ・先進地視察の参加者より、次のとおり視察の感想紹介あり。

- ・2つの学校の第1印象は木がふんだんに使われ温かみがあり、児童生徒が楽しく共同生活を送り、学習にも真剣に取り組んでいる。
 - ・廊下や階段は広く、非常時にも対応しやすい。
 - ・小学生と中学生が共同で学校生活を送るメリット、デメリットについて
- 【メリット】
- ・学校行事や清掃活動、特別活動の際に、中学生が小学生を支援するなど年齢を超えて交流する場を持ちやすい。
 - ・中学生が主体的に活動する力をつけやすい環境
 - ・小学校から中学校に進学する際の中1ギャップを防ぐことが可能。
- 【デメリット】
- ・小中が別々の学校であれば、小学6年生が最高学年として必要な低学年を支援する力を身に付けさせる機会があるが、それが難しくなる。
 - ・中学校は通常の授業が50分であることに對し、小学校は45分であるため、日課やチャイムに工夫が必要となる。（飛島学園では、授業開始時にチャイムを鳴らし、終了時間は鳴らさないとし、小学生が多めに休憩時間を取ることで中学生に合わせる工夫をしている）
 - ・両校ともに力を入れているのが図書スペース。児童生徒が本に興味を持てるよう開放的な空間であることに加え、地域の皆さんに開放し、公共図書館としての機能を持つケースあり。
 - ・視察中、最も印象に残ったのが飛島学園のふれあいホール。全校児童・生徒が一同に会すことができ、一緒に給食を取る。これは、必要な時に一斉連絡ができること、教職員が給食指導を協力して行うことができる。
 - ・視察を終えて特に強く感じたことについて、学校がまちづくりに大きな影響を与えているということ。魅力的な学校や他にはない特徴をもった学校があれば、人が集まりやすくなり、人が町を支える大きな力になる可能性がある。検討委員会で様々なアイデアを出し合い、よりよい学校づくり、まちづくりが進むことを期待している。

- ・関連事項として、教育長より次のとおり発言

- ・小中一貫校について、今までの保護者の方、地域の方との意見交換会の中でも出てきており、これから協議していかなければいけない内容だと思っている。
- ・ただ、学校建設検討委員会は小中一貫校について議論する場ではなく、子どもたちが生活する学校空間、施設としてどうしていくかというのを議論する場である。
- ・小中一貫校について議論する場は、これから教育課において、保護者の方、地域の方との意見交換会を開催し、ご意見をお聞きしたいと思っている。
- ・小中一貫校には様々な形があり、今回、視察した学校のように施設が一体になっているもの、施設が別々に分かれていながら教育課程や学習内容を一貫させている学校もある。施設を一緒にすることが、そのまま一貫校になるというものではない。

【協議事項】

- ・3班に分かれグループワークを実施した。

ワーク①のテーマ：校舎の建設方式について（小学校・中学校を「同一棟」とする場合に期待すること、懸念すること）

ワーク②のテーマ：地域開放の方向性について（学校施設の地域開放の方向性を考える上で大切にすべきこと）

- ・グループワークまとめ（テーマ1）

期待すること（強み・メリット）	懸念すること（課題・配慮すべき点）
・年齢を超えた幅広い交流を通じて、思いやりの心やリーダーシップ（中学生が手本となるなど）が育まれる。 ・小学校から中学校への移行がスムーズになり、中1ギャップの緩和に繋がる。 ・9年間を見通した教育、オリジナリティがある教育。 ・建設・ランニングコストが抑えられ、集中投資ができる。 ・特別教室や空き教室の柔軟な活用可能。	・体格や成長段階が大きく異なる小中学生が同じ空間で過ごすため、落ち着いた学校生活を過ごせるか。 ・設備面での対応が可能なのか。 ・授業時間のずれや活動動線の混在 ・施設環境が変わるため、教職員の対応や負担を減らす調整が必要。 ・中学校から参加する子どもたちの心理的ハードルの高さや、教育の差。 ・小中学生の利用エリアをうまくコントロールできるか不安。

その他意見として

- ・現場の教員の意見をしっかり聞き、設計や運用に反映させることが大切

- ・グループワークまとめ（テーマ2）

大切にすべきこと

<最優先事項：子どもの安全・安心・セキュリティ>

- ・児童生徒が使う「学校エリア」と「地域開放エリア」を明確に区分する。
- ・開放エリアと教室ゾーンの間には施錠できるセキュリティラインを設ける。
- ・専用の出入口を設置し、児童生徒と一般利用者の動線を分離する。
- ・一般利用者の利用時間の調整やルール設定など、学校への影響を最小限にする。

<地域と学校がつながる施設づくり>

- ・地域開放を行うことで、学校を地域のコミュニティ拠点とする。

- ・授業でのゲストティーチャーなど、地域の方にも学校教育に関わっていただく。
- ・地域の人が利用することで、子どもの心の成長にもつながる。
- ・特に図書室の開放は、地域の図書館としての役割が果たせてよい。

<課題・検討事項>

- ・地域開放する場合、誰が管理するのか、夜間はどうするのか。
- ・特に体育館について、授業と地域利用が行われるなど、どのように運用するか。
- ・地域開放について、利用のニーズがあるかの調査が必要。

4 質疑応答

- ・特になし
- ・委員長より次のとおり発言。

- ・グループワークテーマ1、2とも、校舎を同一棟にするのか、別棟にするのか大きな問題。これがはっきりしないと次の話し合いがなかなか進まないのではないかと。今後も皆さんで知恵を出しながら進めていきたい。

5 その他

1) 町民ワークショップについて

- ・資料をもとに事務局が説明。

8月25日（火）19時から、南知多町役場3階大会議室

9月8日（火）19時から、日間賀島公民館3階集会室

9月10日（木）19時から、篠島開発総合センター2階集会室で開催

2) 次回予定

- ・第3回学校建設検討委員会、9月30日（水）10時から、南知多町役場3階大会議室

6 閉会